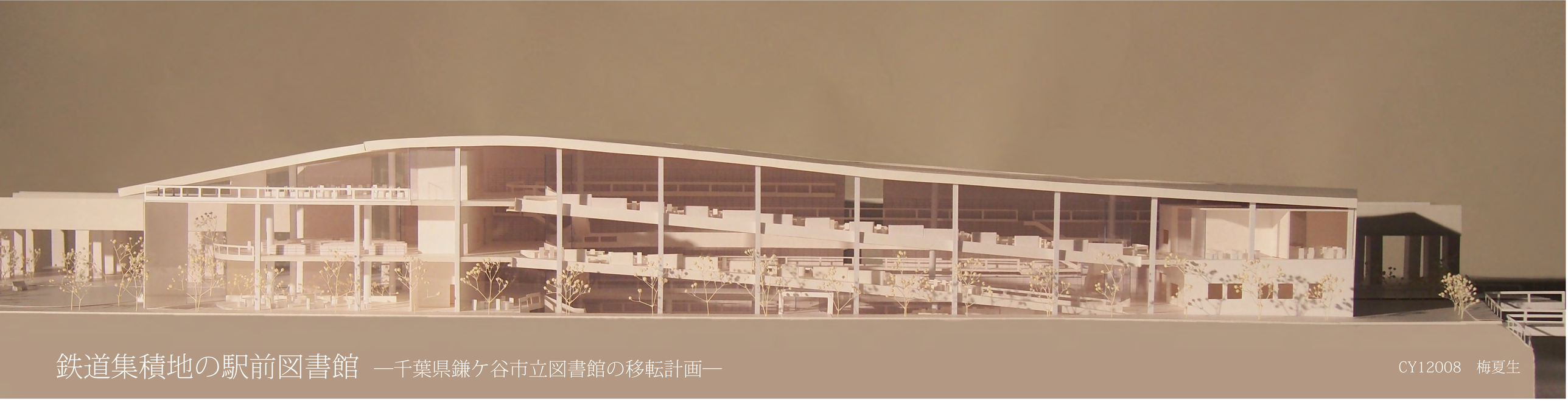


鉄道集積地の駅前図書館 ―千葉県鎌ケ谷市立図書館の移転計画―

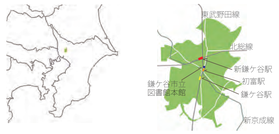
CY12008　梅夏生

1　研究の背景と目的

古い図書館は多くの本が閉架書庫にしまわれ、読みたい本を自由に手に取ることができない。新しい形とされる図書館は、閲覧室内にカフェなどが設けられ、図書館に本を読みに来ているのか、お茶を飲みに来たのかどちらかわからない状況になっている。そこで、現在様々な問題がある千葉県鎌ケ谷市立図書館本館の移転設計計画をスタディーケースとし、『好きな本を好きな時に自由に手に取り、本を読むことを楽しむ場』という図書館の本来あるべき姿について考える。

2　鎌ケ谷市の概要

鎌ケ谷市は千葉県の北西部に位置する街である。市内には東武鉄道野田線、新京成電鉄新京成線、北総鉄道北総線の私鉄 3 路線が走っている。総面積 21.08 ㎢、人口 108.522 人である。



3　鎌ケ谷市立図書館の現状

鎌ケ谷市立図書館本館は市の中央に位置し、1987 年に開館された。敷地面積 1,948.41 ㎡、延べ床面積 2,173.08 ㎡、3 階建てである。鎌ケ谷市内の図書館は千葉県平均と比べると、貸出し登録率、人口一人当たりの年間貸出し数や蔵書冊数が少なく、延べ床面積も小さいという問題点がある。これらの問題を図書館を移転し建て替えを行うことで改善する。

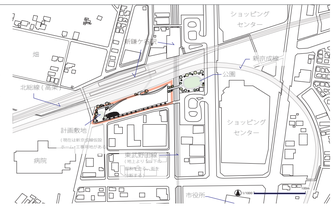
現図書館外観写真

図書館利用に関する千葉県平均と鎌ケ谷市の比較

	千葉県平均	鎌ケ谷市
個人貸出し登録率	36.10%	32.90%
人口一人当たりの年間貸出し冊数	6.00	3.57
人口一人当たりの蔵書冊数	3.47	2.74

4　敷地の検討

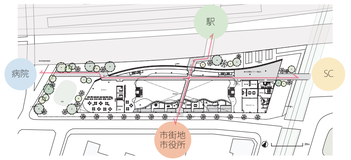
鎌ケ谷は鉄道の発展とともに街の中心が移動してきた。平成以前は東武野田線鎌ケ谷駅及び新京成線初富駅の周辺地区が栄えていたが、平成に入り、鉄道 3 路線が交わる新鎌ヶ谷駅ができると新鎌ヶ谷駅周辺が鎌ケ谷の中心地となった。図書館を建て替えるには全 3 路線の乗換駅であり、都市集積が進む新鎌ケ谷駅周辺がふさわしい場所であると考えた。計画敷地は、現在高架工事を進めている新京成線の、高架化のため不要となる新京成線新鎌ケ谷駅仮設ホーム跡地と工事用地跡とする。



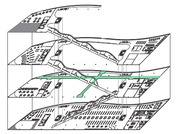
5　設計計画　　Concept『歩いてつなぐ図書館』

①図書館を歩く、街を繋げる

1 階に誰もが通れ、街を繋げる『とおりみち』を作る。



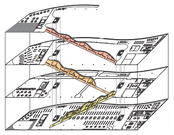
『とおりみち』は日中解放されており、街を横切る人が誰でも利用できる。



ギャラリーや鎌ケ谷情報コーナーを設け、人と街と図書館につながりを持たせる

②うねうねのスロープを歩く

うねうねのスロープで緩やかに階と階を結ぶ。歩いて図書館を楽しむ。

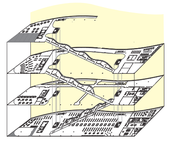


スロープには座席、本棚を用意。開放的な空間で読書ができる。

スロープは 3 枚重なり、やわらかい内部空間を作り出す。

③壁面の本棚から歩いて探す

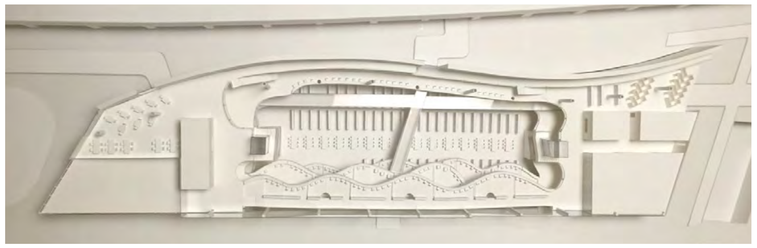
自分の好きなときに好きな本を歩いて自ら見つける。



線路側の壁一面に閉架書庫の代わりとなる本棚を並べる。本の壁に囲まれる。

壁を曲げることで強度を高める

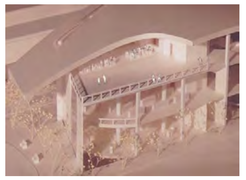
本棚の壁が電車からの騒音を防ぐ

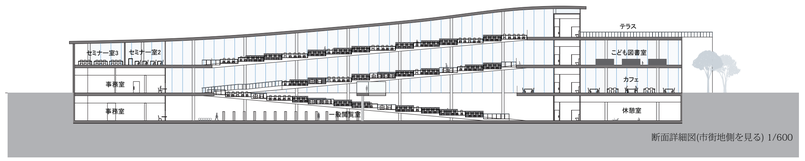


設計した図書館の概要

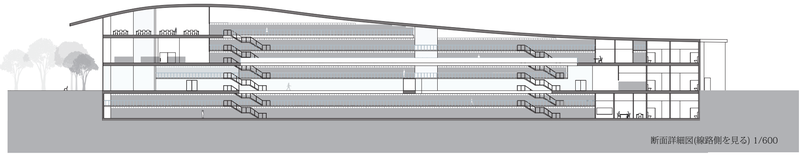
建築面積	6050㎡
延床面積	8770㎡
蔵書冊数	38万9760冊 人口一人当たり4.47冊
座席数	約430席

延床面積は 2173 ㎡から 8770 ㎡に拡大、人口一人当たりの蔵書冊数も 2.74 冊から 4.47 冊に増え、現在の本館の問題点が解決された。

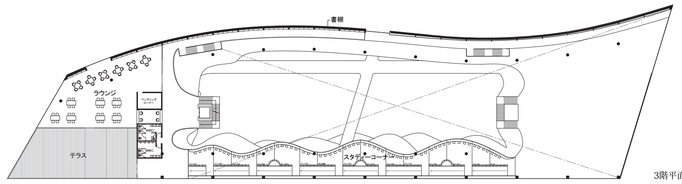




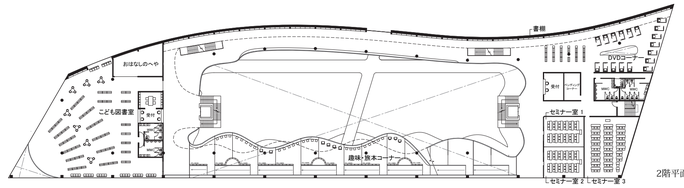
断面詳細図(市街地側を見る) 1/600



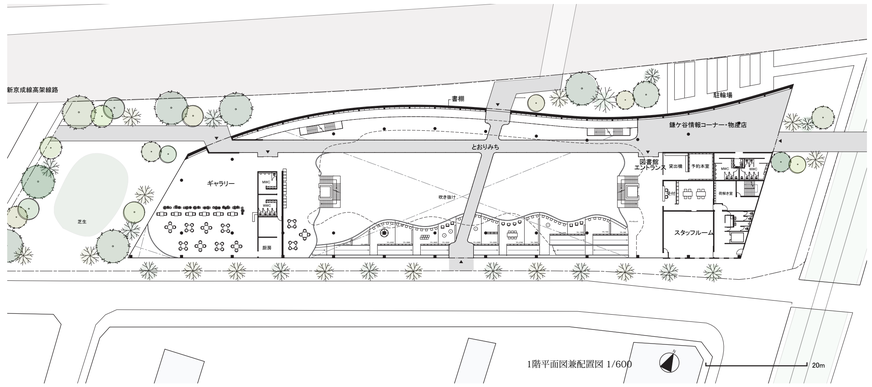
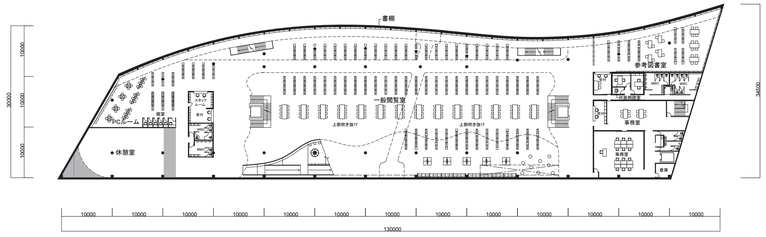
断面詳細図(線路側を見る) 1/600



3階平面図 1/600



2階平面図 1/600



1階平面図兼配置図 1/600　　20m